

2025 年度

(公財) 北海道サッカー協会 都道府県審判トレセン ユース3級審判員研修会① 事業実施報告書

審判委員会 育成部

担当 平石 暁史

都道府県審判トレセン ユース3級審判員研修会①

○2025年8月4日(月) (オンライン) 事前ミーティング

20:00 開始 21:00 終了

1. 自己紹介
2. ユース3級審判員研修会について
3. HKFA 審判員の育成方針について
4. 8/6の集合と研修スケジュールについて
5. 8人制サッカー1人審判法について
6. その他
7. 質疑応答

2. ユース3級審判員研修会①について

第3回(夏季)FDカップ @TOMASEIフットボールフィールド



- ・8人制サッカー大会
- ・1人審判
- ・Jクラブが多数参加
- ・U12選手権への登竜門

2025 ユース3級審判員研修会① 事前ミーティング | 2025/8/4 | 6

○2025年8月6日(水) (苫小牧市)

【会場】 TOMASEI フットボールフィールド

【タイムスケジュール】

9:00 審判員集合・開講・オリエンテーション・事務連絡等
9:10 ウォーミングアップ・試合準備
9:30-15:30 審判実技「FDカップU12北海道国際フットボールドリームカップ」(途中昼食)
16:00 競技終了・振り返り・フィードバック
17:00 洗濯・風呂・宿舎到着
19:00 夕食
20:00 講義1「審判員としての原点とステップアップを目指して」強化指定審判員 田口平蔵氏
21:30 1日目日程終了

【参加者】 審判員6名

鈴木 陽和(オホーツク地区・高3)、鍋谷 心翔(札幌地区・高3)

片桐 奈槻(北空知地区・高2)、沼田 翔(札幌地区・高2)

太田 碧飛(旭川地区・高2)、高久 誠弘(オホーツク地区・高1)

強化指定審判員2名

田口 平蔵(札幌地区所属2級審判員)、一瀬 哲平(札幌地区所属2級審判員)

インストラクター3名

平石 暁史(審判委員会育成部部員・サッカー1級審判インストラクター)

棚山 智哉(審判委員会育成部部員・サッカー2級審判インストラクター)

岸本 拓洋(強化指定審判員担当 INS・サッカー2級審判インストラクター)



○2025年8月7日（木）（苫小牧市）

【会場】 TOMASEI フットボールフィールド

【タイムスケジュール】

6:00 起床・朝食・出発準備

8:00 会場到着・ウォーミングアップ

9:00-15:00 審判実技「FDカップU12北海道国際フットボールドリームカップ」（途中昼食）

15:30 競技終了・振り返り・フィードバック

16:30 洗濯・風呂・宿舎到着

17:00 講義2「(演習): 事象の分析と審判報告書の記入」 靱山智哉氏・岸本拓洋氏

18:30 U-18 審判員研修会 (Rookie Cup U-16) 派遣審判員 (鍋谷心翔・沼田翔) による報告

19:30 夕食

20:30 講義3「2日間の振り返りと最終日に向けての目標」 平石暁史

21:00 2日目日程終了

【参加者】 審判員6名

鈴木 陽和 (オホーツク地区・高3)、鍋谷 心翔 (札幌地区・高3)

片桐 奈槻 (北空知地区・高2)、沼田 翔 (札幌地区・高2)

太田 碧飛 (旭川地区・高2)、高久 誠弘 (オホーツク地区・高1)

強化指定審判員1名

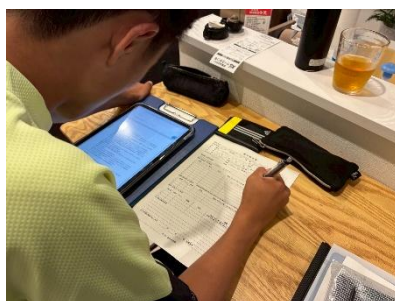
一瀬 哲平 (札幌地区所属2級審判員)

インストラクター3名

平石 暁史 (審判委員会育成部部員・サッカー1級審判インストラクター)

靱山 智哉 (審判委員会育成部部員・サッカー2級審判インストラクター)

岸本 拓洋 (強化指定審判員担当 INS・サッカー2級審判インストラクター)



○2025年8月8日（金）（苫小牧市）

【会場】 TOMASEI フットボールフィールド

6:00 起床・朝食・出発準備

8:00 会場到着・ウォーミングアップ

9:00-13:00 審判実技「FDカップU12北海道国際フットボールドリームカップ」（途中昼食）

13:00 競技終了・振り返り・フィードバック

14:00 3日目日程終了・解散

【参加者】 審判員 6名

鈴木 陽和（オホーツク地区・高3）、鍋谷 心翔（札幌地区・高3）

片桐 奈槻（北空知地区・高2）、沼田 翔（札幌地区・高2）

太田 碧飛（旭川地区・高2）、高久 誠弘（オホーツク地区・高1）

強化指定審判員 2名

一瀬 哲平（札幌地区所属2級審判員）、高野 佑哉（小樽地区所属2級審判員）

インストラクター 3名

平石 暁史（審判委員会育成部部員・サッカー1級審判インストラクター）

初山 智哉（審判委員会育成部部員・サッカー2級審判インストラクター）

岸本 拓洋（強化指定審判員担当 INS・サッカー2級審判インストラクター）



研修をふり返って

○参加審判員 鈴木 陽和（オホーツク地区所属3級審判員）

☆性格をひと言で！「人と話すのが好き、マイペース」

今まで一度もカードを出したことがなく、「これはカードの事象かもしれない」と思っても、自信が持てず躊躇してしまっていました。しかし今回の大会で、初めてカードを出すことができました。色の選択を間違えてしまったものの、なぜその判断をしてしまったのかを振り返り、ミスの原因を明確にできたのは大きな収穫でした。そして何より、自分のポジションが良かったことで迷わず自信を持ってカードを出せたという感覚は、今後大切にしていきたいと思います。

また今大会では、これまで求められていたことに加え、より上の試合を見据えた指導を多くいただきました。1つ目は、走るスピードを工夫し、見せ方を意識しながら走ること。2つ目は、避け方をさらに工夫し、よりきれいでスムーズなレフェリングを実現することです。最初は苦戦しましたが、うまくできた時には次の動きに自然に移行でき、スムーズさを実感できました。今後は今回教えていただいたことを磨き続けたいと思います。

さらに、今回の研修会では、オフの時間にも仲間と「今日の試合はどうだったか」「あの事象はどう考えるか」と話し合い続けることができ、とても充実した時間を過ごすことができました。こうした振り返りを通じて学びが深まったと感じており、これからもこのような良い雰囲気を自ら作り出せるように努力していきたいです。

○参加審判員 鍋谷 心翔（札幌地区所属 3 級審判員）

☆性格をひと言で！「常にうるさく、ときには真面目に、そして集中は切らさない人です」

全国研修で得たことに対してとにかくチャレンジしようと取り組めた研修会であったと感じています。失敗を経験し、それを振り返って次に改善できるよう努める。このプロセスをしっかり達成できたことが大きな収穫でした。他のメンバーのポジショニングを見て学び、寮に戻って映像を見返すなど、失敗から逃げずに取り組んだことで、より多くの学びを得られたと感じています。

一方で、課題もありました。11 人制ではなく 8 人制の 1 人審判として、どこに立てば説得力のある判定ができるのか、タッチラインを見るにはどの位置が最適かなど、ポジショニングの難しさを強く感じました。特に「まずはマネジメントよりポジショニングにこだわって取り組んでみろ」と指摘を受け、自分自身が考えすぎてパンクしてしまう傾向があるため、この研修会では思い切ってポジショニングに集中して取り組みました。また、レフェリングにムラがあるとも指摘され、ものすごく集中できているときと、時折サボってしまうときがあることを自覚しました。1 試合を通じて高いパフォーマンスを発揮するためには、この課題を克服する必要があると強く感じました。

さらに、今回の寮生活の形式は少し大変な面もありましたが、メリットの方が大きかったと思います。特に、いつでも話し合える環境が半ば強制的に整えられていたことが大きな要因で、振り返りを自分たちから主体的に行えたことが、今回の研修会でステップアップできた理由の一つだと実感しています。

○参加審判員 片桐 奈槻（北空知地区所属 3 級審判員）

☆性格をひと言で！「サッカーが大好きで、好きなら高みを求めて進み続けられる人」

私は審判経験がまだ少ないため、「説得力のあるジャッジ」をとにかく意識して試合に臨みました。周囲から「ちゃんと見ているのか」と思われない位置に立てるよう、常に走り続けました。その点についてインストラクターの方からも評価をいただき、自身の長所として自信を持つことができました。一方で、改善すべき点も多く指摘されました。具体的には、GK がボールを保持する秒数を数えていなかったこと、ボールを保持している GK へのチャレンジを誤って間接 FK と判定してしまったことです。最大の課題は、自らの不注意による怪我でした。日頃のケア不足が影響していたと思われ、大いに反省すべき点です。また、ポジショニングについては「正しい判定よりもまずは正しいポジションを取ることが大切だ」との指導を受け、争点が見える場所を探すのではなく、周囲に信頼されるポジショニングを心がけるようになりました。

今回の研修会は、何から何まで新鮮な体験でした。審判員同士の集まり、自分のレフェリングが毎試合評価されること、試合を審判目線から議論することなどを通じて、新たなサッカーの見方を発見することができました。特に、同世代で本気で審判活動に打ち込む仲間と触れ合えたことは大きな刺激となり、彼らに対して深い尊敬の念を抱きました。また、ファウルの有無やカードの色を考えることが、選手としてプレーする際の判断にもつながると気づきました。ピッチ上で「このシーンはこうチャレンジすればよかった」と感じられた瞬間に、自分のサッカー観が深まったことを実感し、感動しました。途中で負傷してしまったことで、本来であればさらに多くの成果や課題を見つけられたはずですが、代わりに補助審判として強化指定審判員の試合を間近で見学できました。彼らの長所や短所、8 人制サッカーへの対応、試合ごとの修正点をリアルタイムでインストラクターとフィードバックできたことは、大きな学びとなりました。

この研修会を通じ、私は今後もまずは選手としての道を第一に歩みたいと思いますが、審判の世界で生きていくことも一つの選択肢だと感じることができました。審判経験の少ない私を受け入れてくださったユース審判の仲間、丁寧にご指導くださったインストラクターの方々、快く送り出してくださいましたチームの監督、そして日頃から応援してくださる皆様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

○参加審判員 沼田 翔（札幌地区所属3級審判員）

☆性格をひと言で！「人と話すのが大好きです！和気あいあいとした雰囲気が好き」

普段取り組んでいる11人制と異なり、8人制ではすべての事象を主審一人で見なければならず、その分、動き方についてより多くのことを意識しなければならないと学びました。その中でも、視野の確保はどちらの形式においても重要であり、最終日の最終試合では、前日に全員で議論したアドバンテージについて効果的な判断をすることができました。また、11人制サッカーと8人制サッカーのポジショニングや動き方は、別のものとして考える必要があると実感しました。

研修会全体を通しては、伊達研修の時よりもオンザピッチ・オフザピッチの両面を意識できたと感じています。オンザピッチでは自分たちで率先して議論を深めることができ、オフザピッチでは和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく研修を進めることができました。

○参加審判員 太田 碧飛（旭川地区所属3級審判員）

☆性格をひと言で！「謙虚さが長所です！試合中は常に冷静に対応することができます」

今回の研修会では、「何を見たいか」を意識してポジショニングを取ることができました。しかし、それが必ずしも最適ではない場面もありました。例えば、オフサイドと全体を見られるように端まで寄った際、逆サイドに展開されると遅れてしまい、その結果ファウルを見逃してしまったこともありました。

また、DOGSOの場面では負傷者も出ており、先に負傷者対応を優先したため、カードを出すのが遅れてしまいました。その際、笛の強さも十分ではなく、だいぶ遅れてレッドカードを提示したため、印象としては締まりのないものになってしまいました。ただし、この経験をしたからこそ、次は迷わずにビシッとカードを出せると感じています。遅れても、距離が遠くても、適切な角度を取っていれば事象は見られるということも学びました。

今回のレフェリングは全体的に上手いかず、満足のいく内容ではありませんでした。それはおそらく、選手や監督、観客にとっても同じであり、レフェリーとして良いことではないと思います。今後は、自分も、選手も、周囲の人たちも納得できる試合を作っていけるよう努力していきたいです。

一方、オフザピッチでは伊達の研修会の時よりも仲間と積極的にコミュニケーションを取ることができました。宿舎では、その日のレフェリングについて相談し合ったり、映像を見ながら考えを深めたりすることで、知識や視点をより広げることができました。

○参加審判員 高久 誠弘（オホーツク地区所属3級審判員）

☆性格をひと言で！「謙虚で決断力がある」

研修会前はポジショニングを課題としていましたが、インストラクターや他のユース審判員から多くのアドバイスをいただき、2日目以降はより良い判定につながるポジショニングを意識してレフェリングすることができました。その結果、以前より確信を持って判定できる場面が増えたと感じています。

一方で、新たな課題も見つかりました。それは、ファウルの基準を自分の中で明確にし、一貫性のある判定を行うことです。これができれば、選手や観客にとってもストレスの少ない試合運営につながると思います。靄山インストラクターと一瀬強化指定審判員からは「ボールに目を残しながら、次のプレーを予測することが大切」と教えていただきました。平石インストラクターの講義ではフリーキックマネジメントの手順を確認し、最終日に自信を持って対応できたのは大きな成果でした。岸本インストラクターからは審判報告書の作成方法を細かく教えていただき、普段のオホーツク地区では経験できない学びを得ることができました。また田口審判員からは「ユースのうちに多くの経験をし、失敗を重ねることが大切」という言葉をいただき、挑戦を恐れない気持ちを強く持つことができました。

今回の研修会では、U-12の試合を1人で担当するという事で、研修会前は不安でいっぱいでした。しかし、初日からユース審判員やインストラクターの方々と積極的にコミュニケーションを取れたことで、安心して試合に臨むことができました。オフザピッチでも仲間と多くの意見交換を行い、さまざまなアドバイスをいただけたことは、自分自身の大きな自信につながりました。

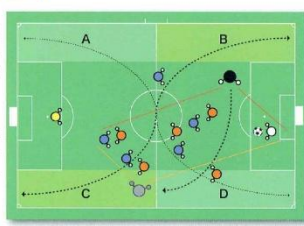
今回の経験をこれで終わりにするのではなく、ここからがスタートだと思い、今後の審判活動に活かしていきたいと考えています。

研修のまとめ

★ ポジショニングの具体例

・ GKから逆襲が始まろうとしているときは、GKのプレーを視野に入れながら、できるだけ早く次の争点を監視する位置に動く。

・ もしAの方向にボールがフィードされるのであれば、主審はCの方向に、Cの方向にフィードされるのであれば、主審はAの方向に動くことが多くなる。



2020 ユース3級審判員研修会(1) 21/24頁 20200904 3

★ グリーンカード

① リスペクトあるプレーや行動にグリーンカードを示す。

② 提示するときに注意することは、

- 試合の流れを止めない。
- ポジティブな行動の意図を見極める。
- 躊躇せずに示す。
- 誰に示されたのかをわかりやすく。
- 声やジェスチャーのみをほめたたえるのもよい。



2020 ユース3級審判員研修会(1) 22/24頁 20200904 4

1. 大会の振り返り (ポジショニングと動き)

争点との距離

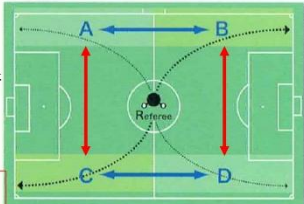
- 適すぎると(細かな動きが見えない)
- 近すぎると(全体像が見えない)

広い視野を確保

- (オフサイドの監視) ができるように

動き方

A = D, C = B
A = B, C = D
・中央を動く(プレーの邪魔になる)
A = C, C = A
B = D, D = B
・この動きをするときはどんなとき?



2020 ユース3級審判員研修会(1) 23/24頁 20200904 5

1. 大会の振り返り (FKマネジメント)

- 反則とその位置を認識する
- プレーを停止し、シグナルをする
- 負傷した競技者への対応
- 警戒措置をとる(素早いフリーキックを認める場合は、あとで判断)
- ボールをコントロールする(適切な位置に)
- 素早いフリーキックを認める(負傷者がいない場合)
- 副審による援助が必要な場合は依頼する
- 守備側の壁をコントロールする(壁を10yd下げる)
- 両チームの競技者の位置を確認する
- 主審の位置取り(両チームの選手の位置を見て、自分がどこにポジションを取るべきか考える)
- さらなる警戒措置は必要か
- 再開のシグナルを示す
- 動き出して、ポジションを修正する



2020 ユース3級審判員研修会(1) 24/24頁 20200904 6

○インストラクター 平石 暁史 (北海道サッカー協会審判委員会育成部 ユース研修会担当)

まず、本研修会の開催にあたり、大会主催者であります株式会社FIND(カベッサ北海道)様をはじめ、審判研修のために試合を提供いただいた参加チームの皆様に、改めて深く感謝申し上げます。また、ユース審判員をご推薦くださった各地区協会ならびに全面的にご支援いただいた各地区協会審判委員会の皆様に、心より御礼申し上げます。

本研修会は、北海道地域におけるユース審判員の育成において、きわめて重要な位置づけを持つ研修会であると考えております。そのため、研修会主催者として、研修を終えた審判員たちがどのような変化を遂げ、どのように成長したのか、その成果が常に問われる責任を強く感じております。

今回の3日間の研修では、気温の高い中、ユース審判員たちが自らの課題に真摯に向き合い、北海道のサッカーを支えるトップレフェリーを目指して懸命に学び、実践に取り組む姿が見られました。また、初めての試みではありましたが、3名の北海道地域強化指定審判員を迎え、後輩のユース審判員に指導をいただいたことも大変有意義な取り組みでありました。3月に伊達市で開催した「ユース3級審判員研修会②」においても感じたことですが、若い審判員たちは互いに協力し合い、前向きな姿勢で楽しみながらチームとして活動する姿勢を本研修会でも発揮してくれました。改めて、本事業が持つ意義と大切さを強く実感する機会となりました。今後も、同じ目標をもった若者たちが目を輝かせながら励んでもらえるような研修会を企画実践していくと同時に、審判技術や知識の習得だけでなく、審判員としての資質や人間性を育てる場としても活動していきたいと思っております。引き続き皆様のご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。